

「宗祇戻 (そうぎもどし)」(稀衛文庫蔵)は、宝暦四(一七五四)年白河の俳人和知風光が編集した俳句の本。挿図に松尾芭蕉の肖像と諏訪神社(神炊館神社)に奉納されていた芭蕉真筆の句として「うらみせて涼しき瀧の心哉」も説明を加えて掲載しています。(この句は岩波版「芭蕉俳句集」(四九二)、加藤楸邨「芭蕉全句」(五二五)に収録されています)

宗祇戻

夏谷自筆ヲ用翁之手跡ハ岩瀬郡須賀川諏訪之社有字之各像ハ辰之浦翁古圖ヲ字旧化書

うらみせて  
涼しき瀧の心哉

おたきや

おたきや

おたきや



曾良随行日記」(天理学図書館蔵)は、元禄二(一六八九)年、松尾芭蕉の「奥の細道」の旅に随行した弟子の河合曾良が書きとめた日記。須賀川には四月二十二日から二十九日まで滞在しました。碑に刻まれているのは、二十八日諏訪明神に参拝した時の一説です。「二十八日発足ノ筈定ル。矢内彦三郎来而(きたりて)延引ス。昼頃ヨリ彼宅へ行而(ゆきて)及暮(くれ)におよぶ。十念寺・諏訪明神へ参拝。朝之内、曇」

曾良随行日記

一ホハの女をく、い花うせん 女内をう  
下らとて、いふをこより、いふをく  
川のゆきを、十念寺、いふをく  
と、いふをく、いふをく